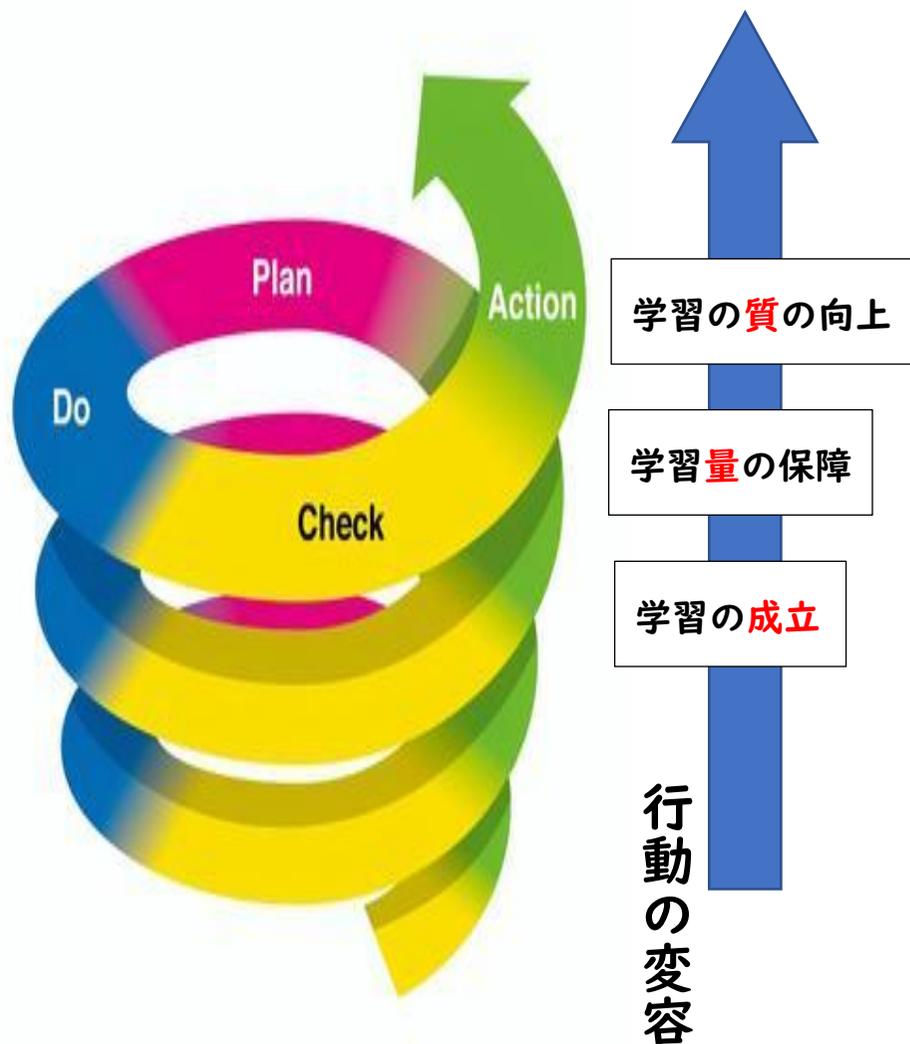


2 支援方法について

(3) 行動の変容を促す指導計画～スパイラルアップ～



発達障害を抱える子どもの教育や保育では不適応を減らし、発達を伸ばすことが目的になります。

授業が分からず不安になったり、いらだったり、想定外の出来事（思い込みとの違い）で混乱したりしますが、発達特性から本人の状況を推測することで具体的な支援策が見付けやすくなります。こだわりの強さは年齢や状況によって変化し、こだわることで安心感を得ています。根底にある不安を軽減し、家庭や幼稚園・保育所等、学校での安心感と達成感を高めることが最重要です。生活の中で納得は得られているか、スケジュールで見通しはもっているか、不安や苦痛を表現できているか。困難な状況を把握・整理して改善していけるよう、課題や支援を適正なものに環境調整します。

そして、その子どもが成功体験として実感できるよう、目標や課題の質・量を検討していきます。個別の指導計画等を作成し、PDCA（計画・実施・評価・改善）サイクルで積み重ねていくことが大切です。